

TIC NEWS

vol. **85**
2007.10

(財)とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F(タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail:tic@tic-toyama.or.jp

URL: <http://www.tic-toyama.or.jp>



雄大な立山の自然を心から満喫(JICA留学生セミナー参加の留学生)

JICA留学生セミナー

JICA（国際協力推進機構）が発展途上国から招聘し、日本の大学等へ学位取得のために来日している留学生に対して、大学が休講中の夏期に、基本的な開発理論や自国の開発に資する実践的な知識の修得、人的ネットワークの構築などを目的に実施する研修がJICA留学生セミナーです。

今回、JICAからの委託を受けて、環境保全をテーマにしたセミナーが富山県内で初めて実施され、ベトナム、バングラデシュ、ラオス、モンゴル、中国、ウズベキスタン、ガーナ、インドネシア、サモアからの9ヶ国10名の留学生が日本各地から参加しました。

☀ 夏休みこども英語塾 ☀

遊びを通して英語に親しむことを目的とした夏休みこども英語塾が、8月後半、計4回にわたり行われました。英語での簡単な自己紹介の仕方から始まり、数字、色、体の部分、趣味、感情を表す英単語などをクイズやゲームを通して学びました。最初は緊張気味でおとなしかった子ども達も体を使ったゲームをすると大はしゃぎ。一気に緊張が消え去った様子でした。最後には「これは英語でどういばいい？」という質問が飛び出し、英語への興味がますます深まったようでした。



ニック先生の指導でアルファベットで名前を書く

第6回 とやま国際塾

7月14日～15日、県内中高生と世界10ヶ国からの海外技術研修員・留学生・外国語指導助手など総勢78名が立山に集い、とやま国際塾を開催しました。国際理解・協力コースでは中高生たちが海外技術研修員や留学生たちと意見をぶつけ合い、異文化や多様な価値観を体験しながら「住みやすい世界」について考えました。留学実践コースでは6人の先生が準備したユニークな授業で留学を模擬体験。ヨガやマルチカルチャリズム、アメリカ英語とイギリス英語の比較、その他様々な英語表現等について学びました。2日間をとおり、「様々な外国の文化や言葉に触れ、楽しかった」「意見の食い違いをまとめるのは大変だったけど協力して答えを見つける過程が面白かった」「文化の違いで戸惑ってもそれを次のステップに持っていけるようになりたい」といった感想があり、参加者各自が様々なことを感じとったようでした。心配していた台風の影響もなく、最後はバーベキューで交流し全日程を終了しました。協力して下さった講師の方々や留学生・研修員の皆様、ありがとうございました。

●国際理解協力コース



●留学実践コース



●その他



JICA留学生セミナー “環境保全”

日時：平成19年8月22日～28日

参加者は、国連環境計画（UNEP）の地域海行動計画のひとつであるNOWPAP（Northwest Pacific Action Plan）や富山県の環境政策、日本海学に関する講義を受けた後、世界自然野生生物映像祭を視察した。また、自家用車の乗り入れを規制している立山黒部アルペンルートの視察では、標高2,450mの室堂周辺を散策し、雄大な自然を満喫しました。発展途上国で活動経験を持つ青年海外協力隊OBとの立山での交流は留学生にとって楽しいひとときとなりました。

環境保全ワークショップでは、料理に使われたてんぷら油（廃油）を利用したろうそく作りや立山山麓でのネイチャーゲームを行いました。

また、今年7月に香港で開催された「高校生環境サミット」に参加した大門高校の生徒と環境保全に関する意見交換は留学生、高校生双方にいい刺激となったようです。

最終日には、富山県で学んだことをまとめて、「一人ができる環境保全」をテーマにレポート発表を行い、本国に帰国してからも各国で環境保全に取り組むことを決意していました。

■主な日程

月日	内 容
8/23	NOWPAP事業、富山県の環境政策
8/24	日本海学、世界自然野生生物映像祭
8/25	立山アルペンルート視察、協力隊OBとの交流
8/26	環境保全に関するワークショップ
8/27	富山県立大門高校で高校生との意見交換
8/28	レポート発表



大門高校生との
意見交換会

廃油を利用したろうそく
作りも大成功!!

新しい国際交流員よりご挨拶！

ニック・ギャラガーさん（アメリカ）

Hello everyone, Nick Gallagherです。富山県の姉妹県、オレゴン州のポートランド市から参りました。

富山県とオレゴン州は友好提携を締結していることをご存知ですか。実はオレゴン州と富山県はたくさんの共通点があると思っています。例えば、周りから田舎っぽいと言われたり、はっきり異なる四季を楽しめたり、海+山+木を満喫でき、きれいな自然がどこでも見られます。富山県は私の出身地オレゴンのように暮らしやすいと思います。

私と日本の初めての出会いは2005年の春でした。当時はオレゴン大学で経営学部と東アジア文化学部の4年生だったので、春学期さえ修了すれば卒業するはずでした。しかし、幸運なことに私の大学で一番難しいとされている日本交換留学プログラムに合格しました。そして、大学の卒業を1年間延長して、東京の神田にある明治大学に入学しました。

留学した時は本当に勉強ばかりしていたので、東京以外の所にはあまり遊びに行きませんでした。1年間甲州街道に面した狭くてうるさい6畳アパートで暮らしました。もちろん東京は好きですが、毎日混んでいる電車に乗ったり、新宿のあまり美味しいとは言えない大気を吸う時、もっと緑の多い混んでない所に逃げたい気持ちになりました。ですから私は富山県に配属された時、本当に良かったと思いました。すぐ富山人になると思っています。

富山県庁と(財)とやま国際センターで翻訳や通訳や友好提携事業の企画をしていますが、一番好きな仕事は英語講座やイングリッシュ・チャットです。もしアメリカやオレゴンの文化に興味があったり、英語が上手になりたい場合は是非TICを訪ねてください。よろしくお願いします！



オレゴンコーストはニックさんのお気に入り

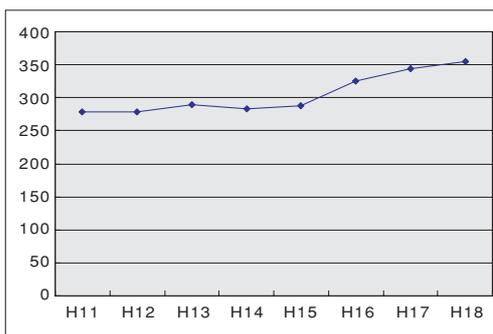
増加する外国人児童生徒

平成2年の出入国管理及び難民認定法改正後、全国の外国人登録者数の増加率は大きくなり、昨年末で208万人を超えています。富山県内の外国人登録者数も年々増加しており、昨年末で14,891人を数え、10年間で倍増しています。

外国人登録者の増加に伴い富山県内の外国人児童生徒数も同様に毎年増加し、平成18年5月1日現在で355人となっています。

一方、射水市内では平成19年5月の外国人児童（小学生）数73人、外国人生徒（中学生）数19人となっており、学齢期にある外国人登録者数に占める割合は約70%（就学率）となっています。

また日本語や生活習慣などと相違から日本の学校に馴染めず学校に行っていない子どもたちも多いと聞きます。しかしながら、その実態は正確には把握できていないという現実問題もあります。



富山県内の外国人児童生徒数の推移

～子どもの権利条約～

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、基本的人権が子どもにも保障されるべきことを国際的に定めた条約です。条約は前文と本文54条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を子どもに保障したものとなっています。

1989年11月20日に国連総会において採択され、2006年12月現在で193の国と地域が締結。日本は、1994年にこの条約を批准しました。

第28条

1. 締約国は、教育についての児童の権利を認めるものとし、この権利を漸進的にかつ機会を平等を基礎として達成するため、特に、初等教育を義務的なものとし、すべての者に対して無償のものとする。

～ユニセフHPより～

射水多文化共生推進会議

射水市及びその周辺地域に住む外国人住民の数は年々増加しており、滞在の長期化や定住化が進んでいます。外国人を日本人と共に生活する住民として捉え、日本人はもとより外国人住民にも暮らしやすい地域づくりを進めていく必要があります。とやま国際センターは射水市及びその周辺地域の多文化共生施策を計画的・総合的に推進していくことを目的として射水多文化共生推進会議を設置しました。第1回目の会議を8月9日に開催し、外国籍子どもサポートプロジェクトの内容について検討し、また射水市周辺の多文化共生について情報・意見交換を行いました。



外国籍子どもサポ

外国籍子どもサポートプロジェクトを解決する糸口としてとやま国際センターが中心となり、とやま国際センター、射水市民国際交流協会、富山YMCA、射水市市民国際交流協会、射水市市民国際交流協会、射水市市民国際交流協会が連携してプロジェクトを推進しています。これらの団体等からこのプロジェクトの企画・実施していくこととして



平成20年度には 多文化こどもサ

このプロジェクトのメイン事業が「多文化こどもサポートセンター」です。これは平成20年度を予定しており、週末等集える場所（公民館などの施設）を予定しています。

このサポートセンターは、子どもたちが集まることができる場所と考えています。竹馬など様々な遊びや日本語、宿題を担う市民（多文化共生サポーター）が子どもの活動を支援します。

サポート プロジェクト

サポートセンターは、外国籍児童生徒が抱える問題の解決が中心となり立ち上げた事業です。射水市、射水市教育委員会や射水市や作道校下自治連合会、外国人住民のみなさんやボランティアが協力してまいります。具体的には、それぞれの核となるコアメンバーで様々な事業を行っています。



しきのソル・ナセンテのサンバ教室

サポートセンター開設！

「多文化こどもサポートセンター」の開設により、射水市内概ね5ヶ所に子どもたちが活動できる場所（施設）をオープンすることとしています。

子どもたちが気軽に活動できる場所です。手品やゲームなどを通して子どもたち



多文化共生サポーター養成講座

多文化共生サポーターの仕事は主に2つあります。その1つは子どもと遊ぶことです。手品、竹馬、習字、メンコ、凧揚げなど子どもが喜ぶ遊びが得意な方大歓迎です。もう1つは、子どもの学習を支援することです。国語、算数、理科、社会など学校の宿題の手伝いをお願いします。

このサポーターになるには多文化共生について少し勉強していただくことが必要です。県内外の多文化共生の第一人者を招いての養成講座を次の日程で開催します。是非これを機会に多文化共生の門をたたいてみませんか？

日時	内 容
10/6 13:30~	「富山県多文化共生プランと現状」 講師 富山県国際・日本海政策課国際協力係長 柴垣 禎 【ファシリテーター CLAIR多文化共生マネージャー 中村 則明】
10/7 13:30~	「在日ブラジル人から見える日本の多文化共生」 講師 武蔵大学准教授 アンジェロ・イシ 【ファシリテーター CLAIR多文化共生マネージャー 中村 則明】
10/13 13:30~	「外国人児童生徒指導から見えること」 講師 子どもの日本語グループ代表 米田 哲雄 【ファシリテーター CLAIR多文化共生マネージャー 中村 則明】
10/14 13:30~	「日本の多文化共生の現状と今後の課題」 講師 (特活)多文化共生センター大阪代表理事 田村 太郎 【ファシリテーター CLAIR多文化共生マネージャー 中村 則明】

場所：射水市図書館

多文化こども交流会

普段あまり交流がない外国籍児童生徒同士、あるいは日本人児童生徒と外国人児童生徒が楽しく交流することを目的に開催します。当日は、マジック、各国の歌と踊り、そしてゲームに遊びの物づくりと盛りだくさんの内容が子どもたちを待っています。

当日は貸し切りバスが各小学校を經由して会場へ、そして交流会終了後、各小学校を巡回し、子どもたちを安全に送迎します。

日時：11月18日(日) 13:30~16:00

会場：橋下条公民館 射水市下条1771 TEL 0766-56-0175

射水多文化共生実態調査

外国人児童生徒は現実的に何に困っているのか、そしてどのようなサポートを必要としているのかを調査します。この調査を平成20年度からの多文化こどもサポートセンターの内容に反映させることとしています。

市町村国際協力・交流担当課長会議

日時：平成19年7月12日

場所：富山県国際交流センター

近年富山県でも外国人住民が増えており、多文化共生への取り組みが必要となっています。

今年の市町村国際協力・交流担当課長会議では、群馬県新政策課政策主監の山口和美氏を迎え、「多文化共生社会の形成に向けて」というテーマで講演していただき、群馬県の外国人登録者数の推移と共に発生している問題について、群馬県が行政や一般県民にどのように働きかけているかを、お話しいただきました。また、その後行われた意見交換会では、今後の多文化共生社会へ向けて活発な質疑応答がなされました。



講師の山口和美氏



JICAボランティア元隊員からの現地レポート

今回はマラウイ共和国から届いた青年海外協力隊 橘 智恵美さんからのお便りをご紹介します。



橘 智恵美さん

派遣国：マラウイ共和国

職種：野菜

派遣期間：平成17年11月～19年11月

配属先：農業灌漑食料保障局ンチェウ農業開発局

アフリカの地マラウイでの生活も残り半年となり、のんびりと流れていた時間が急に早く流れ始めたように感じる今日この頃です。私は野菜の栽培指導者として県の農業省に配属されており、野菜農家への巡回指導、普及所の野菜畑の管理、野菜を使った調理講習会が主な活動です。

野菜の調理講習会のため村に行くと、約束の場所に誰もいない。今日は中止かなと思うと、1人、2人と頭に薪や鍋をのせたおばちゃんがやってくる。待つこと1時間、ようやくみんなが揃い講習会が始まる。まず紙に書いたレシピを使って私が説明すると、真剣な眼差しでおばちゃんたちが聞いてくれる。持参したノートにメモをとるのだが、私が書いてきた絵を下手くそながらも一生懸命写してくれているのを見ると嬉しくなる。空いた時間ができると、歌と踊りの大合唱が響き渡り私を包み込む。最初は恥じらいがあった私も最近では自ら進んで踊りに参加するようになり、アフリカの空気に溶け込んでいる自分を感じています。そろそろ日も傾いてきたにもかかわらず、おばちゃん

たちは残りの材料をすべて使いきるまで作り続けようとする。というのも、講習会の最後には試食をするので沢山もらおうと考えているからである。しかし、試食のときにおばちゃんたちは少ししか食べず、多くを家族に持って帰ろうとする。家族に美味しいものを食べさせてあげたいと思う母の心が、日本もマラウイ同じなんだなあと思うと心が温かくなります。

Voices from the World ～インド共和国・ムンバイ～

世界の富山ファンからのメッセージ

アキラ・タミザベル さん (主婦)

Q. ムンバイの状況について教えてください。

A. ムンバイは1,400万人以上の人口を擁する国際色豊かな都市です。また世界で最も人口の多い都市といわれています。ムンバイはインドにおける商業、娯楽の中心です。ムンバイの旧名“ボンベイ”と“ハリウッド”をもじったボリウッド、映画の街としても知られています。

私たちはムンバイ市中心から南に下ったアラビア海に面するコラバ地区に住んでいます。私たちはインド南部タミル・ナードゥ州出身ですが、夫が現在ムンバイのタタ・ファンダメンタル・リサーチ・インスティテュートに勤務している関係でこちらに暮らしています。引っ越してきてからムンバイの名所をいくつか訪ねました。セントラル鉄道のチャトラパティ・シヴァージー駅で降り、バスやタクシーで10分もするとインド門が見えてきます。その向かいには世界有数の豪華ホテル、財閥タタ・グループの創始者であるジャムシェトジー・タタが建設したタージ・マハル・ホテルがあります。この辺の建物はヨーロッパ風の物が多く、またシッディー・ヴィナーヤク寺院などの美しい寺院が数多くあります。インド門から出ている船に乗るとヒन्दゥー教の石窟寺院があるエレファンタ島に向かうことができます。



インド門 ～ムンバイの顔～

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 私達は1998年から2005年までの間日本に滞在しました。夫が京都大、大阪大、富山大でそれぞれ研究しまして、富山には2003年に滞在しました。富山は田んぼや緑がいっぱいで美しく、私も夫も大好きな場所です。インドはどこでも人で溢れているのに比べて、富山は人口密度が低いですね。最後の富山の冬を見ずに大阪に戻らなければならなくて残念でした。

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 刻一刻変化していく世の中で、私たちは常に友好関係を大事にし、互いに世界の平和を祈りましょう！

こんな“国際交流”やっています！ ～鼓友 夢光組 (南砺市)～

～TICから助成した事業をご紹介します～

鼓友 夢光組はとなみ養護学校卒業生及びその家族によって平成16年に結成された和太鼓のグループです。日中国交正常化35周年を記念した第一期中・日障害者芸術展に参加し、開会式典で和太鼓を披露しました。北京海淀区培智学校（知的障害学校）で子どもたちの歌やダンスを鑑賞し、プレゼント交換などで盛り上がりしました。



“出発前の太鼓の梱包作業、パスポート取得など初めての体験が、たくさんの人に支えられてできたことを、みんなは理解して感謝していると思う。緊張しながらも本番では堂々とした演奏ができ、強い自信と誇りを持ってたと思う。他国の障害者の頑張っている様子を見て刺激を受けたのではないのでしょうか？”と代表の池田さんはおっしゃっていました。

イラン出身
ファリバ・バホレワルさん
お薦め料理!

クク・サブジ

世界有数の古い歴史をもち、他民族国家であるイランは、その料理も色彩豊かで複雑な味わいを持っています。今回紹介するクク・サブジはお好み焼きのような感覚で食べられる料理で、ククは野菜、サブジはケーキのことを意味します。イラン料理はハーブをふんだんに使います。コリアンダー、ディルなどを使うのがイラン風ですが、今回は日本で手に入りやすい野菜で作ってみましょう。



～作り方～

1. 青菜を洗ってから細かく刻んでボールに入れる。
2. 玉ネギとジャガイモをすりおろし、ボールに加える。
3. 塩、コショウ、カレー粉を入れて軽くかき混ぜる。
4. 溶き卵を入れて混ぜる。
5. 小麦粉を入れて軽く混ぜる。
6. フライパンに油をひいて弱火でゆっくり焼く。
7. 焼いたら裏側も焼いて出来上がり。



～材料～

- ホウレンソウ…………… 1束
 - ニラ…………… 1束
 - みつば…………… 1束
 - 玉ネギ…………… 1個
 - ジャガイモ…………… 1個
 - 卵…………… 3～4個
 - 小麦粉…………… 大さじ1
 - 油…………… 少量
 - 塩、コショウ…………… 少々
 - カレー粉…………… 少々
- *好みでクルミを入れてもいい。

TICからのお知らせ

これからの行事予定

日本海学シンポジウム 稲から見つめる環日本海人・風土・環境
10月6日(土) 13:30～17:00 タワー111 スカイホール

イングリッシュ・アドベンチャー
10月15日(月)～12月3日(月) 全8回
毎週月曜日 17:00～18:30 富山県国際交流センター

生活支援日本語ボランティア養成講座“にほんご基礎知識編”
10月16日(木)～12月18日(木) 全10回
毎週火曜日 18:30～20:30 環日本海交流会館

国際交流フェスティバル
10月20日(土)～10月21日(日) CiCビル内/CiC前広場
外国人カラオケ大会、各国音楽の演奏等

国際協力県民シンポジウム
10月20日(土) 14:00～16:15 CiCビル5階 多目的ホール
・とやま草の根交流賞授賞式
・講演 “世界をめぐって感じたこと
—地球環境と人間の幸せ—”
講師 俳優、NPO法人地球友の会理事長 宮内 淳氏

日本海学研究機関連携講座
日本海を科学する—富山湾深海の謎を探る—
12月1日(土) 13:30～16:30 富山県民会館304号室

JICAボランティアH19年度秋募集 10月1日～11月9日
【体験談&説明会日程】

青年海外協力隊・日系社会青年ボランティア
10月3日(水) 18:30～20:30 CiCビル
10月13日(土) 16:00～18:00 CiCビル
10月28日(日) 14:00～16:00 サンシップとやま
シニアボランティア・日系社会シニアボランティア
10月13日(土) 13:30～15:30 CiCビル
10月28日(日) 10:30～12:30 サンシップとやま

ウルドゥ語交流支援員着任!

とやま国際センターでは、富山県からの委託を受けて、ウルドゥ語交流支援員を射水市に配置しました。この事業は、パキスタン人住民が増加している射水市を中心に、富山県内在住のパキスタン人住民の生活相談および地域住民とパキスタン人との交流支援等に対応するためのものです。

ウルドゥ語交流支援員が次の日程で活動しています。悩みを抱えているパキスタン住民の方やもっとパキスタンのことが知りたい方は気軽に訪ねてください。

ウルドゥ語交流支援員 モハマッド・ヤハヤさん
活動日時 毎月第2・4金曜日 14:00～17:00
場 所 射水市役所小杉庁舎201会議室
問 合 せ 財団法人とやま国際センター
TEL 076-444-2500

“とやまライフハンドブック”

中国語改訂版発行!

富山に住む外国籍住民のための生活ガイド。さらに内容を充実した中国語版(日本語併記)がこの度改訂されました。
各市町村外国人登録窓口で配布しています。

